廣讃寺ジャーナル

第165号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

居多の見真堂

釋 綽智

直江津を再訪したのは聖人配流（一二〇七年）の地をしっかりみること、そして高田別院に参ることでした。JR直江津から二十分ほどで配流の地（居多ケ浜）に着くがその前に国分寺に参った。

のどかな昼前、好天で残暑が厳しかったけど静かな境内の三重の塔や本堂を見て隣の妻入りの大きなお堂は聖人が数年も過ごされた草庵（竹の内草庵）である。今は文化財になっていて、中に入れず軒先で参拝する。隣に五智保育園があるので時々、歌声が聞こえてきて何か胸にジーンとくるものがあった。園長さんにあいさつをして居多ケ浜へ出る。昼前で快晴。遠く佐渡の方が眺められ深呼吸する。

ここから左の松林の中に見真堂があるのかわかったのは、先ほどからひと休みしていた私の前を黙っていそいそとそちらに行かれたのは行ってみてよくわかった。八角型のお堂の中で法話がなされていた。いい環境でとてもうらやましく思った。きっと本願念仏のお話で相続されているのでしょう。合掌し居多ケ浜をあとにしました。

コロナ禍で外出もままならなかったけれど心が晴れた旅でした。

光源寺竹の内草庵

親鸞聖人の愛

田中 智教

「永遠の愛」なんて、よく歌の歌詞に出てきますが、一人の人を愛し続けることの難しさは人生経験を多く重ねられた読者の皆様ならお分かりになるのではないでしょうか。チャペルでの結婚式に参列すると、牧師さんから「永遠の愛を誓いますか」と聞かれて「誓います」と宣言する様子を目にすることがありますが、10年も経てばそんな誓いはとうに忘れたとなって、今や日本の離婚率は三割を超える状況です。長年共に生活をし、家族が増えたりする中で、愛の形や質が変わっていくとも言えるかもしれませんが、恒久的な愛を保ち続けることは容易ではありません。

仏教で愛というと、欲望、欲求、性欲などの欲と捉えられます。親鸞聖人にも「悲しきかな、愚禿鸞（ぐとくらん）、愛欲の広海に沈没（ちんもつ）し」（『真宗聖典二五一頁』）との有名な言葉がありますが、その欲を捨て去るどころかどっぷり浸かって脱け出せないことを自覚の言葉でもって人間の事実として教えてくださいます。誰かを愛し、誰かを愛することをやめ、また違う誰かを愛すという具合に、愛を保ち続けることも、愛欲を捨て去ることもできないのが私たちの本性ではないでしょうか。

一方、『無量寿如来会』を根拠に親鸞聖人は「もろもろの聖尊の重愛を獲（う）るなり」（『真宗聖典』二一二頁）との記述があります。これは、仏から愛されているということですが、「重愛」ですから、薄れていかない大変重い愛ということでしょう。つまり、私たちが持ち合わせる一過性の愛ではなく、恒久的な「永遠の愛」と言っても良いと思います。私たちは、愛し続けることも捨て去ることもできないけれど、かけられる愛に

気づくこと、またずっと見捨てず愛し続けてくれている存在に気付くということの大切さを、それこそ親鸞聖人からかけられる「愛」でもって受け取ることができると思います。

居多の見真堂

歳をかさねる

子どものころにプロ野球を観るとおじさんたちが野球をやってると思いました。それがしばらくすると少し年上のお兄さんたちが野球してるというふうにかわりました。その後は自分と同じくらいの歳の選手が活躍するようになりました。やがて自分と同じくらいの歳の選手が引退するようになり、そして監督をするようになりました。子どもの頃にプロ野球の監督といえばそうとう歳をかさねているように見え、このおじいさんは本当に昔に野球していたのだろうかと思ってしまうようなこともありました。

今ではひと回り以上若い選手たちばかりになり顔がみんな一緒に思えてしまうようになり覚えられません。

そんなうつり変わりの中で歳をとったなとしみじみ思う毎日です。

Q

最近、いろいろと悪いことばかりが我が身に降りかかってきます。占い師の人にみてもらったら1年は災いの年になると言われました。こういった時はお寺などでお祓いなどを受けるといいのでしょうか？」

A

占いを信じたくなる気持ちもよくわかります。また、偶然に悪いことが重なる中で災いの年になると言われると不安になることもあるでしょう。浄土真宗のお寺は、お祓いをする場所ではなく、大きくは聞法のために開かれてきた場所といえます。仮にお祓いしたとして、その後も悪いことが起きたらまたお祓いに行くのでしょうか？本当に祓えたのかどうかお祓いが不安の種になってしまうかもしれませんね。そのような自分を注意深く見つめる必要性を親鸞聖人は「化身土巻」で教えてくれています。何を頼りにして生きていくのか、ぜひご一緒にお寺で聞法しましょう。

行事予定

十二月二十八日（火）十時　親鸞聖人命日のお勤め

令和四年

一　月二十八日（金）十時　親鸞聖人命日のお勤め

今年を振り返りますと結局は大きな行事はすべて内勤めとなりました。

大晦日の除夜の鐘も昨年は中止といたしました。今年もコロナ感染者数が多くなるようでしたら中止とし閉門させていただきます。元日の修正会も今年はお勤めをしましたが本堂内には入っていただくことなく外からお参りというかたちをとりましたが、これも感染者数が多いようでしたら来年も同様にさせていただきます。

なんとか早くコロナの嵐が普通の風邪のようになってくれることを望んでやみません。